



～ 学校便り～

# なつめ 6月号

〈編集・発行〉  
鹿児島市立喜入小学校  
〈発行日〉  
令和2年6月19日



ブルーサルビアが  
花を付け始めました。

## 共感 ≠ 承認

校長 内村 英人

「仕方ない。明日にしよう。」「もう少し待ってみよう。」「今は、我慢しよう。」

コンビニや携帯電話、インターネットがなかったころは、欲求を満たすことを先に延ばすことが、今よりも多くありました。世の中が便利で豊かになり、欲求や要求がスピーディーに満たされることの価値が急速に高まる中で、欲求がすぐに満たされないことを我慢する耐性が育ちにくい時代になっているかもしれません。

しかし、「将来の目的達成のために目先の欲求を満たすことを先に延ばすことができる」というのは、学力や気力、体力の向上、社会性の伸長を考える上で、大切な能力であるようです。「今は、やめておこう。」「これ以上はやめよう。」「今は、がんばろう。」「もう少し続けよう」「今は自分のことよりみんなのことを考えよう」といった行動の選択を迫られる場面で、よりよい判断をする経験を積み重ねることは、自分の感情や行動を望ましい方向にコントロールする術を身に付けることにつながります。相手と意見が衝突したときに、暴力や誹謗中傷によって不満を解消しようとするのではなく、粘り強く話し合っ折り返しをつけるということも、自分の感情や行動を望ましい方向にコントロールする力を身に付けていけるでしょう。

しつけにおいて最も大切なことが、これです。大人が思うように子どもをコントロールすることではなく、子どもが迷い、考え、判断することを経験させるのです。しかし、子どもの判断は、常に望ましいものであるとは限りません。その場合、「子どもの迷いに共感しつつも、承認はしない。」という大人の態度が大切なようです。また、簡単に妥協しないけれども、最終的な子どもの判断は尊重するというのも大切なことです。「その気持ちは、よく分かるよ。でも、歩くことは大事なんだよ。それは、～からだよ。がんばって歩く太郎になったら嬉しいなあ。それでも、歩かないの。」

共感にしても承認はしない・・・なかなか難しいものですが、常に承認されるわけではないけれども共感してもらえる存在は、相談相手としてありがたく、信頼できるものです。

ちなみに、欲求を先送りできる耐性を育てるのに有効な教育方針は、「とにかく勉強」ではなく、「体験をたくさんさせる」でもなく、「生活習慣を確立させる」だそうです。

### 【本年度の一事徹底事項】「元気なあいさつ」

現在の達成度:「元気な声」5割,「立ち止まっておじぎ」3割,「自分から進んで」5割 の子どもたちができるようになっています(私の主観ですが)。少しずつ確実によくなっています。

遠くから元気な声であいさつをする1年生がいます。しなやかにきれいなあいさつをする6年生がいます。礼儀正しさ・凛々しさの見本のようなあいさつをする6年生もいます。

横断歩道で止まってくださったドライバーに、お辞儀をしてお礼を伝える子どもの姿に微笑むドライバーをお見かけすると、子どもの礼儀正しい振る舞いは、地域を明るくすると感じます。

来月には、すべてが6割を超えてほしい！御家庭でも、引き続き声かけをお願いします。

抵抗力を高めましょう (十分な睡眠 適度な運動 バランスのとれた食事)